NO.724 2022　　聖イグナチオ教会報

4月

カトリック麹町教会

MAGIS

マジス　＝　「より、もっと、さらに」

教会テーマ　イエスがたたく希望の扉をひらいていこう　新たにつながるために 2030年に向けて一歩ずつ

遣わされる者として

主任司祭　英　隆一朗

コロナウイルスの感染からくる自粛生活が2年を超えました。そしてまた、主キリストの復活の時を迎えました。すでに発表されているとおり、私自身はこの教会を去ることになりました。主任司祭として4年間、助任司祭からあわせて8年間をこの聖イグナチオ教会で過ごしました。

8年前に管区長から聖イグナチオ教会で働く任命を受けた時は、本当に血が凍る思いでした。それまで全く違う分野で働いており、教会で働くことは入会以来一度も考えたことがなかったのです。聖イグナチオ教会で働くことは、大きな十字架を担うことになると予想されましたが、管区長の申し出を断るだけの十分な理由を見つけることができませんでした。結局、神の呼びかけとして受けとめ、覚悟を決めてこの教会に来ました。

当初の予想どおり、大きな十字架を担うことになり、主任司祭の重責まで負わされ、大小さまざまな苦難に直面せざるを得ませんでした。それはそれでよい経験でした。病弱な体がよくもったなと思います。十字架も大きかったですが、その分だけ、復活の恵みも大きかったです。ミッション2030を策定して少しずつ実現しながら、まじめな勉強会も好きでしたし、さまざまなイベントも楽しかったです。

▲英神父と教会と聖霊（当教会信徒 作）

今となっては、皆さんに感謝の気持ちしか湧いてこないです。多くの方々と出会い、交流を深められたことが何よりの宝だと思っています。重責を下ろせる安堵感がある反面、寂しい気持ちもあります。パンデミックが終わって、教会活動が正常化するまで見届けたかった思いが残っています。

復活した主と出会った弟子たちは、十字架の苦しみが嘘のように霧散して、大きな喜びに包まれたことでしょう。しかしながら、復活した主は、弟子たちとずっと一緒にいることはなかったです。むしろ主だと気づいた時、主の姿は見えなくなりました（ルカ24：31）。復活した主は弟子の元にとどまらず、天に昇られます。弟子たちは、復活した主の不在の中でこそ、新たな力をもらい、新たな場に遣わされていきました。

皆さんの中には、私の在任中、いろいろな恵みをいただいたこともあったでしょう。その糧は、不在の中でこそ活かされるべきものではないでしょうか。もしかして私を通して学んだことがあるとしたら、私の不在の中でこそ、それを活かしていってください。復活した主は、皆さん一人ひとりを新たな場に遣わされるでしょう。

私にもまた、思いも寄らぬ異動の命令が出ました（異動の命令はいつも驚かされます）。遣わされる者として、主の派遣命令に応えていくだけです。新たな使命が与えられれば、その任務を果たしていくだけです。また十字架を担うでしょうが、復活の恵みも与えられるでしょう。

主の復活の恵みが皆さんの上に注がれ、豊かな実を結んでいきますように。

教会報 MAGIS 4月号

† 2022 年度教会テーマ　P2
† 教会行事の報告　P3
† 特別記念インタビュー ボニー・ジェームス神父最終誓願　P4
† 入門講座参加者に聴く 教会と歩む　信仰の道　P5
† イグナチオ年特集 最終回　P6

【4月の共同祈願】

†4月1日～16日
【３月の共同祈願】文を唱えます。

†4月17日復活の主日～
この春、新しい生活を始められる方々が、
復活されたイエスさまと共に
勇気と希望を持って、
歩むことができますように。

†4月24日復活節第２主日～
ご復活の光の中で、
子どもたちが初聖体の恵みをいただきます。
教会の未来である子どもたちが、
イエスさまの新しいいのちに生かされ、
イエスさまに倣って
成長していくことができますように。
担当：聖体奉仕者グループ

宣教司牧評議会より

2022年度教会テーマ決定

戸をたたくイエスに応えて、ともに歩んでいこう

信徒代表　瀧田かよ子

教会は新年度を迎えました。2020年からの新型コロナウイルス感染症の拡大は2年が経ち、収束はまだ見えてきません。私たちは、この間、教会へ自由に来てミサに与り、集い分かち合う、あたり前と思ってきたことが難しく厳しい状況となり、自粛という言葉のもとに閉じこもりがちで不安を感じ過ごしてきました。

2022年度教会テーマ

イエスがたたく希望の扉をひらいていこう

新たにつながるために

2030年に向けて一歩ずつ

宣教司牧評議会では、2022年度の教会年間テーマを考えるにあたり、昨年度の振り返りから、教会テーマへの思いを分かち合いました。

聖イグナチオ教会は、東京教区大司教様の指針をもとにして、感染拡大の予防対策として新しい形での対応が進められ実現しました。

インターネットを使い、ミサはライブ配信され、講座や黙想会、各連絡会、教会祭などの行事も配信により、広く多くの方と祈りつながりができたことを感謝いたします。

一方で、教会へ来ることが難しく、新しい形になじめずにいる方、つながりの場を求めている方へ思いやり寄り添う配慮が必要となってきました。

さらに、各教会活動が休止の間にグループのメンバーの高齢化が進み、グループの存続にかかわる状況が見えています。信徒が主体となって世代間を越えて、つながり支え合い協働する、新たな教会共同体を築いていくことが重要となってきました。

ミッション2030の4つ目の柱の「新しい協働」フォーラムが1年遅れで開催され、各教会活動グループからそれぞれの活動状況や連携すべきことなどを発表いただき、参加者と分かち合う場となりました。ミッション2030の基本理念を意識し、ご理解いただける機会となったのではないでしょうか。

コロナ禍は、制限され不自由を感じたからこそ、見えてきたことや気づきが多くありました。一人ひとりの信仰と教会のあり方を見つめ考える恵みの時を得ました。

そのうえで昨年度は、困難な中で希望の扉をひらき、歩みを進めることができました。

2022年度の教会テーマは、主に「扉をたたく」、「つながり」、「希望」、「祈り」、「分かち合い」というキーワードをもとに考えました。さらに「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。」（ヨハネ黙示録3:20）からの言葉をいただき決まりました。

イエスがたたく
希望の扉をひらいていこう
新たにつながるために
2030年に向けて
一歩ずつ

戸をたたくイエスに応えて中に入っていただき、私たち一人ひとりが心の扉をひらき、ともにつながり、希望へと一歩ずつ進んでまいりましょう。

教会行事

2月下旬から3月中旬に行われた主な教会行事をご紹介します。　（担当 S）

●最終誓願式

2月26日（土）14時から主聖堂で行われました。司式はイエズス会日本管区長レンゾ・デ・ルカ神父で日本語で祝福と激励のお話がありました。

最終誓願式を迎えられたのは、小暮康久神父、ボニー・ジェームス・ムジヤンカル神父、トーマス・ニャララムクラッツ・ヴァルキー神父の3人。祭壇の前でひざまずき、誓願書を読み上げて管区長に手渡しました。

▶右から小暮神父、ボニー神父、トーマス神父

続いて小暮神父（日本語）、ボニー神父（マラヤーラム語）、トーマス神父（英語）が順番にお礼を述べられました。（YouTubeにて配信中）

◇

小暮神父、トーマス神父から寄稿していただいた、式後の感想を紹介します。

・小暮神父

これまでどれほど多くの方々との出会いとお祈りに支えられて、この道を歩いてきたのかを思い、感謝しかありません。神さまの恵みは皆のものですから、これからも神さまの恵みを分かちあう道をご一緒に歩んでいけたらと願っています。

・トーマス神父

私には終生〝Compan-ion of Jesus〟という名で知られたいという望みがあり、イエズス会がこの望みを受け止め、受け入れてくれたことに心から感謝します。聖イグナチオにならい、「神のより大いなる栄光のために生きる」。期待に忠実に応え、本当の意味で「イエスの友」になっていけますように、これからもお祈りください。

・ボニー神父（4ページにインタビュー記事掲載）

小暮康久神父
1971年 埼玉県生まれ
2001年 イエズス会入会
2012年 司祭叙階
2016年～イエズス会霊性センター「せせらぎ」において、黙想指導などに従事

トーマス・ニャララムクラッツ・ヴァルキー神父
1973年 インド・ケララ州生まれ。
1992年 イエズス会入会
2001年 来日
2008年 司祭叙階
現在、上智大学短期大学部准教授

●灰の水曜日

3月2日（水）12時からと19時からの2回に分け、主聖堂で行われました。新型コロナウイルス感染症対策のため、今年もインターネット予約された方が参列しました。

12時のミサで柴田潔神父は、「灰の水曜日は罪を意識しながら神の恵みに近づくことができるので、隠れた恵みに感謝して」、19時ミサのハビエル・ガラルダ神父は、「①施し②断食③祈りの3つの善行の動機に注意して、神さまに喜んでいただけるように」とそれぞれ四旬節の過ごし方を示されました。（19時ミサはYouTubeにて配信中）

●十字架の道行

3月4日～4月8日の毎金曜日、18時45分からマリア聖堂にて行われています。『十字架の道行』を使って、イエスさまのご受難をしのびながら復活の神秘を黙想します。

先導者が木製の十字架を持って聖堂内の「留」を移動して第14留まで進み、静寂の中で会衆と心をひとつにして、最後に十字架賛歌を唱え、主の祈りと結びの祈りを捧げます。コロナ禍のため2年ぶりの再開となり、今年は、会衆は自席にて心の中で祈りを唱えるかたちで行われています。

また、今年は新型コロナウイルス感染防止のため『十字架の道行』（カトリック中央協議会編 定価：100円＋税）を配布しておりません。必要とされる方は、教会案内所にてお買いもとめください。

●洗礼志願式

3月6日（日）10時からのミサの中で行われました。

司式司祭の英隆一朗神父は「四旬節を迎え、すでに洗礼を受けている信徒の方も共に節制と愛の心をもつことに努め、神の道を歩んでいくようにしたいです」と話され、洗礼志願者61名に「使徒信条」が授与されました。

▶代父母と共に歩む洗礼志願式

●侍者祝福式

3月13日（日）10時からの『子どもとともにささげるミサ』で、2年ぶりに新侍者16名が誕生しました。参加した15名一人ひとりにボニー神父、柴田神父から白い襟が授けられ、これから侍者として歩み出します。

ボニー・ジェームス神父　最終誓願特別記念インタビュー

福音を伝える「宣教師」として生きる道を選んで

2022年2月26日、主聖堂にて最終誓願を終えられた助任司祭のボニー神父にお話をうかがいました。（担当E、H）

◆司祭になるまで

南インドのケララ州の出身です。幼児洗礼で「福音者聖マタイ」の霊名をいただいています。これは「長男は父方の祖父の霊名を継ぐ」現地の習慣によるものです。

幼稚園から大学までのすべての教育は故郷の教区（Pala-i Diocese）の学校で学びました。地元の所属教会で小さい頃からお世話になった神父様方やシスター方の姿を見ながら育ち、学生の頃から司祭・修道者になりたいという希望がありました。高校を卒業する時、イエズス会の召命担当の司祭と出会ったことが入会のきっかけです。そこからインドで修練が始まりました。

7年間の哲学期を終え、「宣教師になる」という強い希望を胸に抱き、来日が決まったのは2006年。2年間日本語を勉強したあと、広島のエリザベト音楽大学で中間期としてキリスト教人間学を教えました。その後上智大学神学部に編入し、修士課程（神学研究科）まで学びます。叙階したのは大学院に在籍中の2013年でした。

叙階式はインドの所属教会で、シロマラバル典礼（後述）で行いました。日本からも司祭や信徒、神学部の同期など21人も参加してくれました。叙階後、しばらく協力司祭としてこの教会で働いたあと、下関の細江教会で助任司祭として2年間働き、アフリカで第三修練を終えてアメリカの大学で学び、再びこの教会で助任司祭として働いています。

▲第3修練の時にケニアの小教区にて。ミサでの奉納の一コマ

▲日本から参列した住田神父（来日当時のイエズス会日本管区長）が新司祭へ挨拶

▲シロマラバル典礼で行われた司祭叙階式（2013年・インド）

プロフィール

1976年	インド・ケララ州生まれ、受洗
1998年	インド・マハトマガンディー大学卒業
2000年	イエズス会（インド・ケララ管区）入会
2006年	インド・ロヨラ大学哲学修士課程修了、宣教師として来日
2013年	司祭叙階（インドの教会 にて）
2014年	聖イグナチオ教会・協力司祭
2015年	上智大学神学修士課程修了、細江教会（広島教区）・助任司祭
2017年	第三修練（ケニア）
2019年	ニューヨーク・フォーダム大学司牧神学修士課程修了、聖イグナチオ教会・助任司祭

◆シロマラバル典礼

シロマラバル典礼とは、古代シリア語（正式名シリアク）とマラバル（現ケララ州の古代名）の略語で、ローマ・カトリック教会（西方）と統合されている東方典礼を持つ22の教会のうち、2番目に大きい教会（1番目はウクライナ・ギリシャ東方教会）です。1世紀にイエスの弟子、使徒トーマスがインドに信仰を伝えたとされていますが、当分野の学者たちによると、4世紀までに、東シリアの東方典礼が当時の貿易ルートを通してインド南部に根づいたとなっています。

今でも司祭は聖櫃に向かって司式をします。第二バチカン公会議以前はラテン語ではなく、シリア語でミサが行われていました。主日ミサは約90分と長く、司教の公式訪問時のミサや教会祭のような特別なお祝いの時だけ行われる「荘厳ミサ」は3時間以上かかります。私の司祭叙階式のように、4時間を超える荘厳な式典もあります。

◆最終誓願を終えて

今思うのは、ここまで来られたことは恵みだということです。チャレンジの連続を乗り越えてきました。「できない」とか「この道を歩めるのだろうか」と思うことも多かった。迷いながらこの道を歩み、それでも神さまは最終誓願まで導いてくださいました。

家族を始め、周囲の人々の祈りや助けもありました。祈りの支えは、いつも前に進むための燃料です。

聖イグナチオ教会の信徒の皆さんにも心から感謝しています。至らないところもありますが、これからもよろしくお願いします。

入門講座参加者に聴く
教会と歩む　信仰の道

コロナ禍により、教会で講座を開催することが難しくなっていましたが、少しずつ再開されてきています。
新年度を前に、「入門講座」に参加されている方々に、講座での体験をお話しいただきました。

初めて入門講座に参加して……

聖書を心で読み、苦難を乗り越え　洗礼へ

私は令和元年10月に、初めてシスター野本の入門講座に参加いたしました。娘がカトリックの一貫校に通い、宗教音楽が趣味でしたので「聖書の勉強」のつもりでした。参加するようになりしばらくたった頃、コロナが流行し、同じ頃に私の思いをはるかに超えた辛いことが身近に起きました。その時の救いはお祈りでした。

頭のレベルではなく、心の底からふりしぼる祈りをするほかない状態へ導かれ、初めて神さまと親しくなれた時でもありました。

▶洗礼志願式の日にKさんが撮影

その後の講座は私にとって「癒しや希望」の場となり、お祈りを通して神さまと対話をする毎日に変化してゆきました。講座の仲間との分かち合いは毎回とても味わい深く、シスター野本のお言葉はたまものです。未熟な私を楽な方へ、幸せな方へと導いてくださいます。講座を通じて聖書を心で読むことを教えてくださいます。

この出会いがなければ、私は苦難を乗り越えられなかったと思いますし、お祈りを通して自分の心を神さまに預け、委ねることで楽になれることもなかったと思います。

昨年は、迷いましたが洗礼志願を見送りました。神さまが私の人生の最も的確な時期をお与えくださるだろうと思いました。今年は洗礼を志願し、祈りのうちに今を過ごしております。

これからも変わりなく講座に参加し、ミサに与かれることに感謝し、四谷に通い続けたいと思います。

（洗礼志願者　K）

信徒による講座に参加して……

共同体の温かさや刺激を大切に　仲間と共に

講座に関わるようになったきっかけは、講座のスタッフをしていた先輩へ仕事部屋をお貸ししたことです。シスター鷲尾から「あなたも同席を」と、言われるままお話を伺うちに「あなたも助けてあげてね」と。シスター鷲尾の入門講座を信徒が引き継ぐことの重責に緊張する先輩を手助けしたいけれども、私は部外者だしと困惑しました。でもこれは主の導きでした。

信徒だけであっても、支え合って工夫し講座を作ってゆけるというのは大きな発見でした。互いに頼り、無理と言うことも、素直にできるようになった気がします。

また、仲間と共にあるという感覚を得られるようになりました。「キリシタンの信仰」をテーマにした回では、〝壮絶な体験にも、仲間と共にという恵みがあった。私たちもこの繋がりを大事にしたい〟という分かち合いがあり、オンラインなのに温かいものが流れました。グループでミサに与れることも心強いです。

この教会では、聖職者による講座がオープンで開かれているので、いつでもそちらを頼れるのも有難いです。信徒による講座は、信仰を歩む人たちが講話の学びを基に気付きや情報を分かち合う場。共同体の温かさや刺激を大切にし、様々な講座とつながりながら、未信徒の方も受洗された方も一緒に、感謝して歩んでゆきたく思います。（ロヨラ）

講座の開催状況は教会ホームページ・教会事務所で確認を

講座によって、開催方法や募集状況が異なります。講座の最新の開講状況は教会ホームページの講座一覧または教会事務室にお問い合わせください。

Ignatius500
イグナチオ年

聖イグナチオの伝記　最終回
終わらない旅

主任司祭　英　隆一朗

遣わされること

さまざまな困難があったものの、1540年、イエズス会が正式にバチカンから認可を受けた。そして、イエズス会の総長に、イグナチオが選出された（彼は強く辞退したが）。その後、イグナチオは総長として、ローマに留まることになった。ローマの使徒として、さまざまなことに着手する。

教会で説教し、子どもたちに要理を教えることもした。このような活動が後の教会使徒職に発展していく。マルタの家（若い娼婦の厚生施設）の開設をはじめ、病人や孤児を助ける救済事業を行う。これは現在の社会使徒職につながっていく。さらに、コレジオ・ロマーノ（現在のグレゴリアン大学）を設立する。ここから、イエズス会の大切な使徒職として、大学教育に深くコミットしていくことになった。

イグナチオがローマに留まるところから、新しい巡礼の旅が始まる。会員たちのミッションの旅が始まったのだ。一番有名なのは、フランシスコ・ザビエルであろう。彼は苦行のしすぎで健康を害して、イグナチオの秘書をしていた。もう一生大した仕事ができないと思われていた。その時、ポルトガル王の要請でインドに会員を派遣する必要が生じた。予定していた会員が病に倒れたので、船が出る前晩にフランシスコが代役を引き受け、翌日出発した。それ以降、2人はもう二度と会うことはなかった。その他の会員も各地に派遣され、特にヨーロッパの各地でめざましい働きをすることになる。

このような動きから分かるように、イエズス会の霊性の中心は、ミッション（派遣・使命）を果たすことである。必要とされるところならば、どこにでも勇敢に出かけ、そこで人々の必要に応える姿勢である。私たち一人ひとりも、いつも必要なところに遣わされる使命を帯びている。それが神のみ旨だと思うならば、命をかけても、その使命を果たしていく覚悟があるとよいだろう。

互いの絆を保ちながら

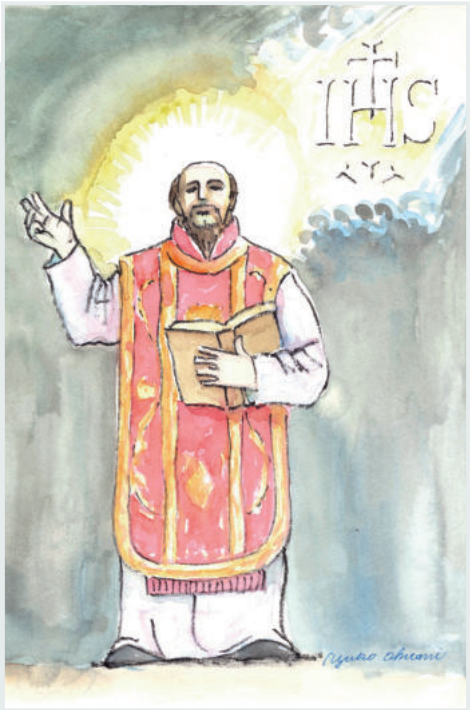
世界各地に散らばる会員をつなぐため、イグナチオは手紙を用いて、コミュニケーションをとるように心がけた。7000通の手紙が残されているが、1日30通ほどを書いた計算になる。自ら書くだけでなく、会員が手紙を書くことも望んだ。日本のキリシタン時代の殉教者に聖人・福者が多数存在する。それは当時のイエズス会員が書いた多数の手紙が現存していて、その記録のおかげで列福調査が可能だったからだ。

また、イエズス会の会憲（イエズス会員の生活や仕事などの規範をまとめたもの）を執筆することに専念した。彼の霊的センスと現実的なものの見方が見事に融合したものである。会憲がしっかりしていたからこそ、イエズス会は450年にわたって、一度も分裂することなく、それぞれの国や時代に合わせた形で修道生活を送り、ミッションを果たし続けているのである。

現在、イエズス会は、教育・大学・教会・社会使徒職・黙想指導などを通して、人々の救いに邁進し続けている。その根底にあるのは、必要なところどこでも応えて、出向いていくミッションの精神である。イグナチオの巡礼の旅は終わらない。その精神を引き継いだ会員が、いまだに終わらない旅を続けている。私自身もその一端を担っている。どこに派遣されようとも、自由な心でそれを引き受け、神の国のため、全力を尽くしていきたい。皆さん一人ひとりも神の派遣に応えていくことができますように。

◆自らに問いかけてみる◆

・自分自身は今、どこに遣わされているだろうか。神の派遣にどう応えているだろうか。



「毎日ミサを立て、取り扱っていた問題点を神にささげ、それについて祈る。これがわが霊父の会憲を作成する方法であった。」
（自叙伝101）

※英神父様の異動に伴い、今回で最終回になります。イラスト担当は、日本画家で美術教育に携わっている、当教会信徒の大谷結子さんでした。

Family of St.Ignatius

～スペイン語圏から～

長年の取り組み

出身国がさまざまであり、文化も多様性に富んだスペイン語圏コミュニティのメンバーの中には、配偶者が日本人である人も少なくありません。国際結婚で生まれた子どもたちは日本の学校に通い、日本語を母語、スペイン語を母国語として育ちます。両親は子どもたちにスペイン語を覚えてもらおうと努めますが、残念ながら多くの場合仕事に追われて子どもたちと一緒に過ごす時間が限られます。そのため、子どもたちのスペイン語が思うように上達しない現実があります。セントロ・ロヨラは 40 年以上にわたり、このような家庭の子どもたちのためのスペイン語教室を開設して支援してきました。ボランティアの先生方は、子どもたちのスペイン語が上達し、自分の母国語であることを意識できるように、また海外に住んでいる親戚ともつながりを保てるよう力を注ぎ、支えてくださっています。

● 3 月の宣教司牧評議会からのお知らせ●

（3 月 3 日開催）

1．承認事項
- 2022年度年間行事予定表の修正案が承認されました。

2．報告事項
- ４月よりベトナム語グループのためのセンターが開設されます。
  ベトナム語グループのための平和と安全をかけて「アンベトセンター」と名付けました。
- 今年もイースターエッグの頒布は行わず、全世帯へイースターカードを年間行事予定表と同封し郵送します。
- 年間行事予定の送別会（4 月 3 日）は中止し、4 月 17 日（日）10 時ミサ終了後に主聖堂で英神父様の送別会を行います。（配信あり）

● 3 月のお知らせ（2 月 22 日抜粋）●

◇ミサなど変更点
- 土曜日 12 時の高齢者ミサは感染リスクを減らすため休止を続けます。
- 3 月 6 日（四旬節第 1 主日）から日曜日 18 時ミサと 17 時 30 分からのゆるしの秘跡を再開します。
- 主日ミサに個人ネット予約で参加される方は、入堂の際、ＱＲコードでの予約確認をします。
- グループ予約は継続します。

◇その他
- 四旬節や年度末の集まり、勉強会などを対面で行う場合、感染リスクを考えながら賢明な対応をお願いします。飲食はできる限り最低限でお願いします。

主任司祭　英　隆一朗

※「4 月のお知らせ（2022 年 3 月 24 日）」から、高齢者・基礎疾患のある方向けのミサを、毎月第 1 土曜日 12 時のみに行います（事前予約不要）。4 月は 2 日（土）。ゆるしの秘跡は 4 月 17 日（日）から 2 週間お休みし、5 月 1 日（日）から再開します。場所は主聖堂前室。

●ウクライナ緊急支援のお願い（3 月 6 日）●

ウクライナ紛争で多くの避難民が発生しています。イエズス会にはＪＲＳ（Jesuit Refugee Service）という国際ＮＧＯがあります。今回の紛争においても、すばやく活動を始め、ウクライナ国内、周辺諸国で避難民の世話を開始、または受入れ準備を整えつつあります。この JRS から世界中のイエズス会に支援要請がなされ、聖イグナチオ教会では 3 月末まで募金活動を行いました。引き続き下記イエズス会口座で募金を受付けますので、ご支援ください。

「イエズス会難民サービス（JRS）口座」
みずほ銀行　四谷支店
口座番号：（普通預金）036-3063675
加入者名：宗教法人カトリックイエズス会 ウクライナ難民支援金

●受難の主日から復活の主日までの典礼●

4 月 10 日（日）　受難の主日（枝の主日）

9 日（土）　18:00　ミサ　グループ事前申込とインターネット個人申込

10 日（日）
- 7:00　ミサ　インターネット個人申込
- 8:30　ミサ　グループ事前申込とインターネット個人申込
- 10:00　ミサ　オンライン配信
  グループ事前申込とインターネット個人申込
- 18:00　ミサ　インターネット個人申込

4 月 14 日（木）　聖木曜日　主の晩餐の夕べ
- 19:00　オンライン配信
  インターネット個人申込

4 月 15 日（金）　聖金曜日　主の受難
- 19:00　オンライン配信
  インターネット個人申込

4 月 16 日（土）　聖土曜日　復活の聖なる徹夜祭
- 19:00　オンライン配信
  インターネット個人申込
  但し、洗礼関係者が入堂するので受付けは若干名

4 月 17 日（日）　復活の主日
- 7:00　ミサ　インターネット個人申込
- 8:30　ミサ　グループ事前申込とインターネット個人申込
- 10:00　ミサ　オンライン配信
  グループ事前申込とインターネット個人申込
  ※ 8:30 と 10:00 ミサでグループ事前申込が多数の場合、人数制限のため主任司祭による抽選とさせていただきます。
- 18:00　ミサ　インターネット個人申込

- 主聖堂入堂は感染症拡大防止のため 150 人限定です。
- グループ（4 名以上）事前申込は 1 ヶ月前から受付けます。
- インターネット個人申込は 1 週間前の 15 時から受付けます。
- 詳細は聖イグナチオ教会ホームページ、教会事務室でご確認ください。

【お詫び】 マジス 2 月号および 3 月号 1 ページにおいて、「2021 年度教会テーマ」とすべきところ「2022 年度教会テーマ」と誤って表記されました。ここにお詫びして訂正いたします。

4 月の典礼と行事

1　（金）　初金曜日	
3　（日）　四旬節第 5 主日	
10　（日）　受難の主日（枝の主日） 聖週間	
14　（木）　聖木曜日（主の晩餐）	**19：00**　　聖香油のミサ（10：30 カテドラル）
15　（金）　聖金曜日（主の受難） （大斎・小斎）	**19：00** **十字架の道行　15：00　（ オンライン配信のみ）** **聖地のための献金**
16　（土）　聖土曜日（復活徹夜祭）	**19：00（洗礼式）**
17　（日）　復活の主日	**聖体奉仕者任命式　10：00 ミサ**
24　（日）　復活節第 2 主日 （神のいつくしみの主日）	**初聖体　10：00 ミサ　　ミサ後お祝い会　　ヨセフホール**

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

●マジスからのお知らせ●　2022 年度 4 月号より、誰にでも見やすく読みやすいユニバーサルデザインに対応した書体を使用して、紙面を刷新いたしました。

主任司祭：英　隆一朗
助任司祭：ボニー・ジェームス
　　柴田　潔
協力司祭：ヘネロソ・フローレス
　　ハビエル・ガラルダ
　　グエン・タン・ニャー
　　マヌエル・シルゴ
ブラザー：吉羽　弘明
シスター：イベッテ・サンチェス
　　（セントロ・ロヨラ）
　　フロール・フロレーセ
　　（ジョン・デ・ブリット　イングリッシュセンター）

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサ時間　Mass
【平日 Weekday】
　7 :00（聖体顕示）主聖堂　Main Chapel
　12:00/18:00（ミサ又は聖体顕示、聖堂は要確認）
【日曜日 Sunday】主聖堂　Main Chapel
　土曜 18:00/7:00/8:30/10:00/18:00
　12:00（English）/13:30（Español）/
　15:00（Việt Nam）/16:30（English）
【月の第 1 日曜日 1st Sunday】
　Our Lady's　Chapel
　12:30（Português）/16:00（Polski）
【月の第 2 第 4 日曜日　2nd ＆ 4th Sunday】
　Our Lady's Chapel　16:30（Indonesian）

カトリック麹町教会
（聖イグナチオ教会）
〒 102 － 0083
千代田区麹町 6 － 5 － 1
TEL 03 － 3263 － 4584
FAX 03 － 3263 － 4585
http://www.ignatius.gr.jp

ホームページ　フェイスブック

マジスへのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。